

第27回「総合的な学習の時間」

哲学対話



芝浦工業大学柏中学高等学校

本時の内容

1. LIFEログ
2. 哲学対話

本時の内容

1. LIFEログ

2. 哲学対話

「LIFEログ」の目的

日々の気づきを記録する、そして次に活かす



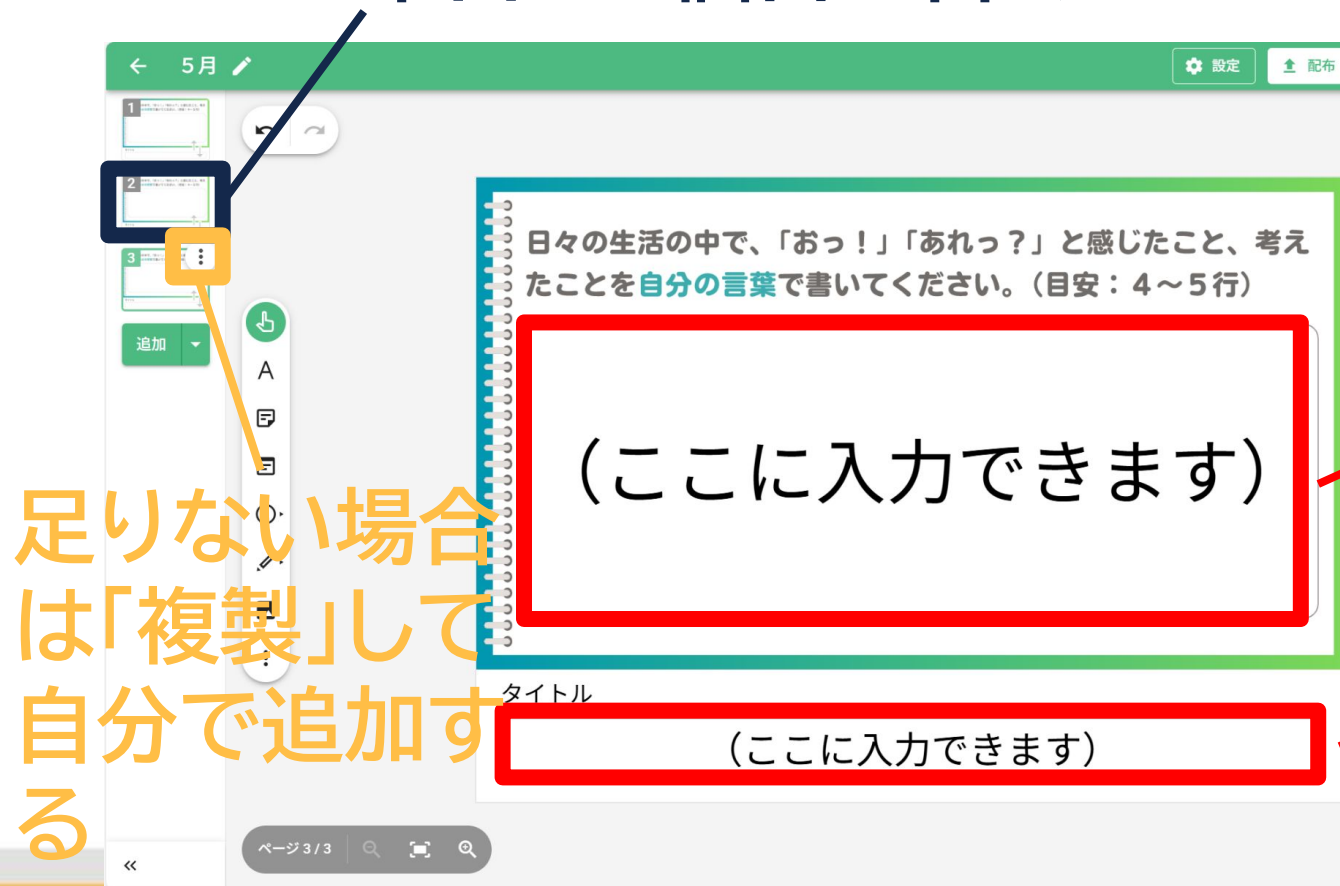
「LIFEログ」の実施方法

🕒 5分

総学の授業で、毎回5分程度、スクールタクトに入力する時間を設ける

本日は2個目に書く

「総合的な学習/探究 LIFEログ」
→「1月」の課題をクリック！



← 5月

設定 配布

1

2

3

追加

A

日々の生活の中で、「おっ!」「あれっ?」と感じたこと、考えたことを自分の言葉で書いてください。(目安: 4~5行)

(ここに入力できます)

タイトル

(ここに入力できます)

ページ 3 / 3

ここに本文を入力

タイトルも忘れずに!

足りない場合は「複製」して自分で追加する

本時の内容

1. LIFEログ

2. 哲学対話

哲学対話とは

哲学対話とは、人が生きるなかで出会うさまざまな問いを、人々と言葉を交わしながら、ゆっくり、じっくり考えることによって、自己と世界の見方を深く豊かにしていくこと。

【出典】河野哲也編・得居千照・永井玲衣編集協力(2020)『ゼロからはじめる哲学対話—哲学プラクティス・ハンドブック』ひつじ書房

YES NO ゲーム(アイスブレイク)

4人のグループでやってみよう



 5分

- ① チッチ役をグループで1名決める
- ② チッチ役は「好きな食べもの」を考える
- ③ チッチ役以外の人は1人2回まで質問できる

※動画のような好きな食べ物の選択肢はなしとします

「見知らぬ国の男」

4人のグループで対話をしてみよう



 5分

問い:「島の住人たちは、なんで、敵かもしれない男と仲良くなれたんだろう？」

対話とは、「お互いに思っていること、感じていること」を出し合い、それぞれの「ズレ」を確かめ合うコミュニケーションです。



相手を貶めたり、論破したりすることは対話ではありません。相手の意見を一旦受け入れ、お互いのズレを楽しみましょう！



「親しみが湧いた経験はある？」

個人で考えてみよう



2分

「誰かに自分と同じところを見つけて、親しみが湧いた経験はある？」

「自分と似ていない人と仲良くできる？」



5分

4人のグループで対話をしてみよう

問い:「自分と似ていない人と仲良くできる？」

対話とは、「お互いに思っていること、感じていること」を出し合い、それぞれの「ズレ」を確かめ合うコミュニケーションです。



相手を貶めたり、論破したりすることは対話ではありません。相手の意見を一旦受け入れ、お互いのズレを楽しみましょう！



哲学対話の流れ

- ① グループ作り
- ② 場所の整備
- ③ ルールの確認
- ④ アイスブレイク
- ⑤ 問い決め
- ⑥ 対話
- ⑦ 振り返り

①グループ作り

②場所の整備

③ルールの確認

④アイスブレイク

⑤問い決め

⑥対話

⑦振り返り

①グループ作り

クラスを6つのグループに分ける

自分の出席番号を6でわったときのあまりでグループを確定

あまり 1	あまり 2	あまり 3	あまり 4	あまり 5	あまり 0
グループ I	グループ II	グループ III	グループ IV	グループ V	グループ VI

①グループ作り

②場所の整備

③ルールの確認

④アイスブレイク

⑤問い決め

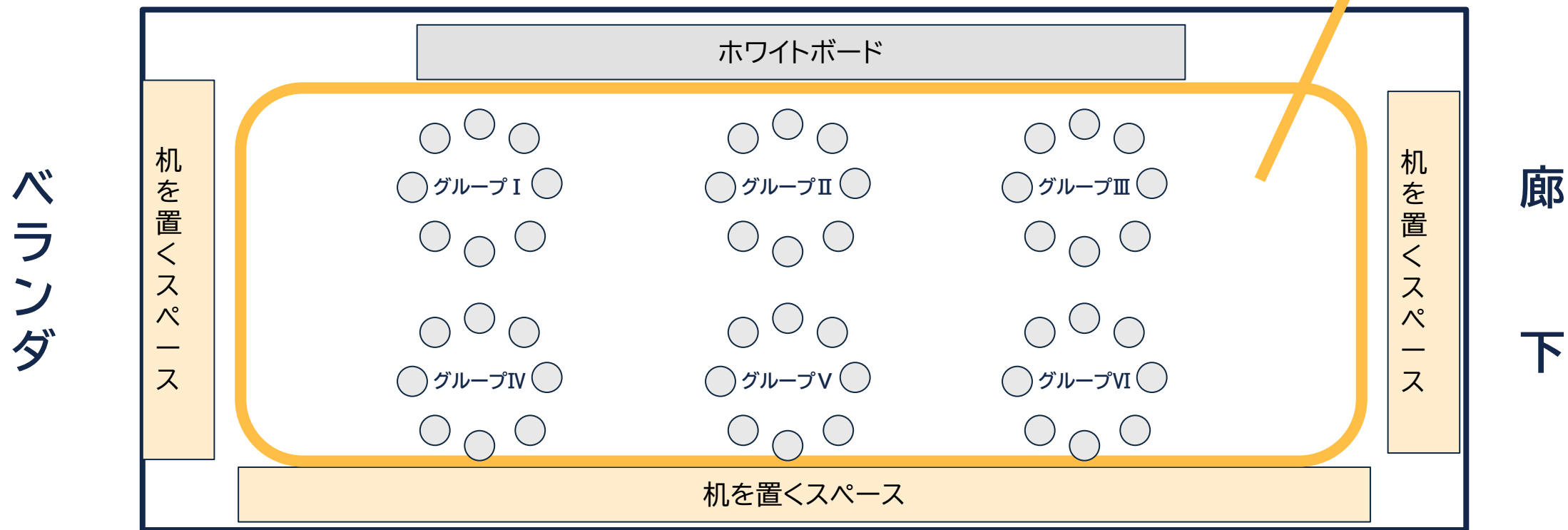
⑥対話

⑦振り返り

②場所の整備

机や椅子を下のように移動

なるべく広いスペースを！



①グループ作り

②場所の整備

③ルールの確認

④アイスブレイク

⑤問い決め

⑥対話

⑦振り返り

③ルールの確認

以下のルールをよく読み、他者の発言をきちんと聞く

- ① ボールをもった人だけが発言できる(発言の際は手を挙げ、目印を受け取って話す)
- ② 何を言ってもいい(間違いや正解はない)
- ③ 人が言ったことを馬鹿にしたり、茶化したりしない(終わった後も同様)
- ④ 発言せずに、ただ聞いているだけでもいい
- ⑤ 話がまとまらなくてもいい
- ⑥ 考えが変わっていくことを楽しむ
- ⑦ 沈黙があってもいい(それは、とても大事な時間である)

④アイスブレイク

ボールを使った自己紹介しよう

ボールを順番に回して

(1)「名前」

(2)「好きな給食(カフェのメニュー)についてのエピソード」

を簡単に話してください

※自己紹介後、グループの中でファシリテーターを1名選出

①グループ作り

②場所の整備

③ルールの確認

④アイスブレイク

⑤問い決め

⑥対話

⑦振り返り

④アイスブレイク(ファシリテーターの介入)

ファシリテーターの介入は以下の2つを意識するとよい

(1) 参加者の発言が活発でない場合、一人ひとりに「いかがですか」「ご意見はありますか」「どう思われますか」などと発言を促したり、順番に発言してもらったりする。ただし、発言したくない人に無理に発言させることのないよう、配慮しましょう。「沈黙を恐れず」くらいの心構えでいるとよいでしょう。

(2) 参加者の発言が活発である場合、対話の速度が速くなりすぎてついていけない人が出たり、発言に発言がかぶさったり、けんか腰になったりします。そういう場合には、「ちょっと待ってください」「もう少しゆっくり行きましょう」と直接減速を促したり、「もう一度言っていただけませんか」「それは～ということでしょうか」などとそれまでの話の流れを整理したり確認したりすることも有効です。

①グループ作り

②場所の整備

③ルールの確認

④アイスブレイク

⑤問い決め

⑥対話

⑦振り返り

⑤問い決め

以下の候補からグループ全員で話し合って、問いを決める

- (1) 大人になるってどういうこと？
- (2) 何のために勉強するのだろうか？
- (3) 仕事って何のためにするの？

①グループ作り

②場所の整備

③ルールの確認

④アイスブレイク

⑤問い決め

⑥対話

⑦振り返り

⑥対話

対話はファシリテーターと全ての参加者が協力してつくりあげる

対話のコツ

- 話すことよりも、考えることが目的！ゆっくりと話す。
- 言っていることが分からなければ、質問をして理解に努める。
- 聞いているだけでもOK、沈黙もOK。ただし、考えることは諦めない。
- 話している人の話を最後まで聞く！みんなが安心して話せる場を作りましょう。
- ほかの人を傷つける発言でなければ、どんなことでも自由に話してOK。
- **意見よりも、質問することが大事。そこで使うのが「Qワード」！**

【出典】NHK for School『対話のやり方 | Q | NHK for School』<https://edu.web.nhk/school/article/q02.html> 2026年7月28日

①グループ作り

②場所の整備

③ルールの確認

④アイスブレイク

⑤問い決め

⑥対話

⑦振り返り

「聞くとき」のポイント

梅のかさを忘れずに！

【う】うなずく
【め】目を見る
【か】体を向ける
【さ】最後まで聞く



【出典】小泉令三・山田洋平(2011)『子どもの人間関係能力を育てるSEL-8S② 社会性と情動の学習(SEL-8S)の進め方 小学校編』ミネルヴァ書房

⑦振り返り

哲学対話の振り返りフォーム(Classroom配信)に入力してください。

 5分

①グループ作り

②場所の整備

③ルールの確認

④アイスブレイク

⑤問い決め

⑥対話

⑦振り返り